

文部科学省平成 29 年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の  
諸課題に関する調査結果について

文部科学省平成29年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について

1 調査結果の概要

(1) 暴力行為

暴力行為件数の推移（全国合計は全国公立学校の調査結果）（単位：件）

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
小学校	21	45	51	71	186
中学校	275	207	282	212	233
高等学校	57	41	34	29	40
県合計(千人当たり件数)	353(4.6)	293(3.9)	367(4.9)	312(4.3)	459(6.4)
全国合計(千人当たり件数)	55,329(4.5)	50,927(4.2)	53,306(4.5)	55,646(4.7)	59,615(5.1)

暴力行為は459件で全校種で増加している。この要因としては、特に小学校において、学校における見守り体制を強化し、けんかやふざけあいなどにおける軽微な暴力行為も初期段階で発見・指導に努め暴力行為件数に計上したことにより増加につながったと捉えている。校種間では、中学校での発生が最も多く233件(50.8%)で、次いで小学校186件(40.5%)、高等学校40件(8.7%)となっている。

暴力行為の形態は、「生徒間暴力」341件(74.3%)、「器物損壊」65件(14.2%)、「対教師暴力」48件(10.5%)、「対人暴力」5件(1.1%)となっている。

(2) いじめ

いじめ認知件数の推移（全国合計は全国公立学校の調査結果）（単位：件）

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
小学校	277	397	925	1,227	1,568
中学校	257	293	431	670	594
高等学校	15	28	70	66	86
特別支援学校	10	10	11	22	40
県合計(千人当たり件数)	559(7.2)	728(9.5)	1,437(19.0)	1,985(27.1)	2,288(31.7)
全国合計(千人当たり件数)	181,028(14.8)	182,985(15.1)	218,038(18.1)	313,590(26.3)	401,594(34.0)

いじめの認知件数は2,288件で、小学校・高等学校及び特別支援学校で増加している。

これは、教職員にいじめ防止対策推進法の定義が浸透し、より正確かつ積極的にいじめの認知を進めるとともに、アンケートの結果や児童生徒からの相談等を踏まえ、教師による聞き取りなどの取組を詳細に行った結果だと捉えている。なお、認知されたいじめのうち、いじめ解消の要件である3か月以上いじめがない状態となったものが約88%であり、慎重に解消の判断がなされた結果と捉えている。

「いじめの態様」(全9項目より複数回答)は、全校種で「冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」が最も多く、次いで小学校・中学校・特別支援学校では「軽くぶつかられたり、遊ぶふりをしてたたかれたり、蹴られたりする」、高等学校では「パソコンや携帯電話等で、ひぼう・中傷や嫌なことをされる」となっている。

(3) 小学校・中学校における不登校

小学校・中学校不登校児童生徒数の推移（全国合計は全国公立学校の調査結果）（単位：人）

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
小学校	105	125	116	116	135
中学校	533	495	431	410	483
小中合計(千人数)	638(11.1)	620(11.0)	547(9.9)	526(9.7)	618(11.6)
全国合計(千人数)	115,784(11.8)	118,787(12.2)	121,881(12.7)	129,116(13.6)	139,027(14.7)

小学校・中学校の不登校児童生徒数は618人で、ここ数年増減はあるものの概ね横ばい状態が続いている。

不登校の要因は、小学校では「不安の傾向がある」46人(34.1%)、「その他(理由がはっきりしない)」38人(28.1%)、「無気力の傾向がある」35人(25.9%)、中学校では「無気力の傾向がある」153人(31.7%)、「不安の傾向がある」116人(24.0%)、「学校における人間関係に課題を抱えている」109人(22.6%)などとなっている。

(4) 高等学校における不登校

高等学校不登校生徒数の推移（全国合計は全国公立学校の調査結果）（単位：人）

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
徳島県(千人数)	118(6.1)	140(7.3)	101(5.4)	93(5.0)	101(5.5)
全国合計(千人数)	43,179(18.8)	41,555(18.2)	37,793(16.6)	37,049(16.3)	37,493(16.8)

高等学校の不登校生徒数は101人で、ここ数年増減はあるものの概ね横ばい状態が続いている。

不登校の要因は、「不安の傾向がある」28人(31.8%)、「無気力の傾向がある」24人(23.8%)、「学校における人間関係に課題を抱えている」23人(22.8%)などとなっている。

(5) 高等学校における中途退学者

高等学校中途退学者数の推移（全国合計は全国公立学校の調査結果）（単位：人）

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
徳島県(出現率%)	252(1.3)	192(1.0)	160(0.8)	129(0.7)	139(0.7)
全国合計(出現率%)	38,602(1.6)	33,982(1.4)	31,083(1.3)	29,531(1.3)	28,929(1.3)

高等学校中途退学者数は139人で、ここ数年増減はあるものの概ね横ばい状態が続いている。中途退学の理由は、「進路変更」57人(41.0%)、「学校生活・学業不適合」41人(29.5%)、「問題行動等」18人(12.9%)などとなっている。

## 2 今後の取組

今回の調査結果について個別に分析し、課題を明らかにするとともに、「徳島県いじめ問題等対策審議会」及び「徳島県いじめ問題等対策連絡協議会」において幅広い意見を求め、さらなる対策を検討し、課題解決をめざす。